



2010年11月 1日発行（通算第59号）

発行 福井 甫方 呑川の会

連絡先 〒146-0066 大田区雪谷3-15-14
呑川の会 HP

<http://home.m00.itscom.net/nomigawa/>【第1】

<http://home.t07.itscom.net/nomigawa/>【第2】

高橋会員 HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>

の み が わ



今年度の呑川関連工事

（福井 甫 記）

今年度の呑川関連工事

盆明けの8月17日建設局第二建設事務所の照井係長から今年度の呑川関連工事の概要説明がありましたので、紹介します。

1. 呑川防潮堤耐震補強工事



昨年度施工の夫婦橋～天神橋間の左岸

地震による液状化現象のため護岸の損壊を防止する工事で昨年から25年度までに夫婦橋から呑川新橋までの1600mのうち、昨年度の夫婦橋～天神橋区間に引続き、本年度は天神橋～清水橋240m、北糺谷橋から上流側200mの2区間の着工。

地盤改良は薬液注入により行うが、舟の運行はストップさせないとのこと。

北糺谷橋付近のフェンス高はこれまでより50cm低くする。

呑川の会からはこの辺りは道路面が川の水面より低い点を逆手に護岸に川の中が覗ける窓の設置を提案した。

2. 呑川緑化工事

20年度の境橋～東橋間、21年度の東橋～鷹の橋間に続き、今年度は鷹の橋～居村橋280mを実施し、引き続き工大橋まで。また池上橋下流側は25年以降に実施予定とのこと。

今年度区間は道路幅の関係で左岸には樹木とヘデラを、右岸にはヘデラを植える。

植える樹木は道路沿い住民、町会、区と相談して決めているが、呑川の会として桜だけでなく、樹種の種類を増やすこと、特に橋のたもとには宮前橋下流側右岸に生えている合歡の木を植樹して4月の桜、7月には合歡の木の薄桃と変化をつけることを提案。



昨年度施工の東橋～鷹の橋間左岸

3. 川河床整備呑工事

呑川未改修区間の改修工事最後の段階になり、今年度はその10工区(新幹線～芹ヶ橋90m)、その9工区(道々橋から下流側90m)の2箇所。その9工区に例の下水道横断地点があるが、以前から二建の説明の通り、下水道横断地点の計画河床面に合わせるといことで落差工はなくなる。その代わりというのでもないでしょうが、これまでの20mに1箇所の割りで設置されていた縦7.5m、横4.0mの開口部に加えて、川幅全幅に延長約20m深さ50cmの開口部を道々橋下流側に設置するとともに、更にその開口部に小石を詰めた蛇籠状のものを設置することにより、流れにより変化をつけ、かつ小石に珪藻が生えないか等の施策も検討してみたいとのことでした。落差工がなくなるのは残念ですが、それに変わる施策もいろいろ検討されていることは感じられました。会員の高橋光夫さんのレポートによれば、これまでの縦7.5m、横



八幡橋下流側の鯉の遡上していた開口部

4.0mの開口部までは鯉の遡上がみられるとのこと。とすれば道々橋下流に新たに設けられる川幅全幅で延長20mの開口部には鯉が遡上できる可能性はあるでしょう。鯉だけに限って言えば鯉の生息範囲がこれまでの八幡橋下流から道々橋までに広がったことになるかも知れません。また川面両側に設けられた植生部もよく生育すれば生きものにより影響を与えるでしょう。

第二建設事務所のさらなる検討を希望・期待します。

呑川・八幡橋「水上写真館」開催 ～六郷用水寛政400年記念～

(菱沼 公平 記)

現在、産業道路に架かる呑川新橋の一つ上流の八幡橋の耐震架替工事が行われています。殺風景な工事現場を少し変化を持たせようと、第2回地元見学会の期間【平成22年7月26日(月)～7月30日(金)】に、「水上写真館」を開催する運びとなりました。ここに至る経過は、工事発注者



の大田区都市基盤整備部建設工事課 工事担当と、五洋・永光・市石建設工事共同体の五洋建設株式会社工事主任、大田区立郷土博物館 学芸員が相談して開催の運びとなった。

この橋の名前の由来となった子安八幡神社のある一帯はかつて「下袋村」と言われていた。ここは小泉次太夫が六郷用水開削の功により下袋村を徳川幕府より知行地として賜ったものです。かつての呑川はここには

は流れておらず、もっと北側に流れておりこの辺りは水田地帯だったと言われている。子孫の墓は、今も子安八幡神社のすぐ裏に、現在は廃寺となった円龍寺跡に残り、子安八幡神社にもゆかりの鳥居や扁額が伝えられている。この事で写真の主体が六郷用水となり、「六郷用水とは」「六郷用水と下袋村」「現在の六郷用水」「六郷用水新旧写真」「六郷用水散策ルート」「六郷用水講座記録写真」を約100枚展示した。毎日が今年の猛暑の中、大雨もあつたりした中500名以上(警備員カウント)の人が見に来てくれました。

このたびの展示物は、「水利の会」大田区立郷土博物館・友の会の有志学習として1985(昭和60)年に発足、区内外の自然河川・用水・湧水など私達の生活に関わって来た歴史的水環境について学習を続けている会と、「六郷用水の会」昨年5月から今年の3月まで開催された、大田区社会教育課主催の大田区民大学講座「水先案内人養成講座～六郷用水に学ぶ～」の卒業生を中心に結成された。六郷用水の歴史的・文化的・地域的意義を多くの人に知ってもらい、関心を抱いてもらおうとして活動を始めている。

今回はこの橋の一帯が「下袋村」で小泉時次太夫の知行地と言う事で、六郷用水が選ばれたが、これからはこのような機会に呑川の会が選ばれるように準備が必要と思います

(福井 甫 記)

中島さんちの生産緑地

マンション建設 浮上

今年は一度も台風が上陸せず夏が過ぎ秋を向え、ちらほら木々の葉も散り始め、行楽地より紅葉の話題が聴くる季節と 呑川の久が原地区久根橋と八幡橋間の右岸に中島さんの「生産緑地」があるのは、ご存知と思いますが、中島さんは高齢化により農業を続けることが困難になり、「生産緑地」を解除し、売却されたいとの意向を持たれていました。当初は大田区での買い取りを希望されましたが、大田区では購入できないということで明和地所(株)に売却され、同社がマンション建設を計画しています。



計画の概要は次の通りです。

建築物	共同住宅(58戸)	地上6階
敷地面積	2232.73 m ²	
建築面積	1276.90 m ²	
延べ面積	5209.52 m ²	
着工予定	22年12月中旬	
完工予定	24年1月下旬	

呑川の会としてこの生産緑地は呑川沿いの貴重は緑地であり、特に呑川には水面に下りられる親水公園がないのでこ

ここに親水公園が面に下りられる（写真は建設予定地、手前囲み内が野菜洗い場）できればと思っており、親水公園の要請は大田区との意見交換会の場でも表明してきました。

またここには湧水を利用した野菜の洗い場があります。この湧水は大田区環境保全課の環境調査報告書にも登録されている湧水ですが、現在は水が出てないとも言われ調査が必要ではあります。

湧水が現在もでていいるなら湧水の保全・活用は是非して欲しいことであり、そのことを大田区の開発担当、あるいは明和地所に申し入れる必要があり、呑川ネットとして親水公園化も含めその予定で考えています。

私が今回の問題で強く感じる点はやはり万一生産緑地の解除が必要になったとき、その跡地利用の検討を事前に進めておく必要があったということです。敷地 2232.73 m²で地価を仮に 50 万円/m²とすると総額約 11 億円。この費用をどう負担するのか、公園にした場合東京都からの助成金があるとのことですし、また必ずしも全て公園でなく、一部は現在不足している保育所、老人施設の敷地にすることも考えられるでしょう。世田谷区にあるようなトラストの仕組みもあるかわかりません。

11 月には大田区との意見交換会もあります。その席上でしっかり議論できればと思います。

改修後の生きものたち（その5・その7工事編）

湧水孔プールを活用する魚たち

（高橋 光夫 記）

呑川の中流域、右岸は「久が原」、左岸は「仲池上」の地域の改修工事が進められています。まだ全域の工事は終わっていませんが、「八幡橋～仲之橋」区間は「その5工事」「その7工事」が2回に分けて行われ、この7月に完了しました。

すぐに生きものたちへの直接的効果が現れるわけではありませんが、夏を越えて見えてきたことを報告します。



改修工事前のこの区間は、矢板鋼板がむき出しでかなり傷み、耐震補強が行われることになりました。

しかし、この場所の「自然河床」は壊され、このような「3面コンクリート張り直立護岸」の典型的な「都市中小河川」のスタイルに変わりました。

(写真: 工事完了後の情況)



ただ今回の一連の工事は、他区間とは違い、いくつかの前進が見られました。

兩岸の河床には「植栽帯」が設けられ、水棲植物が植えられました。

ツルヨシなどの稲科の植物は野鳥たちの「えさ場」になりますし、大きく繁ればオオヨシキリたちの営巣場所になるかもしれませんし、トンボたちの羽化場所になるかもしれません。

(写真: 兩岸の植栽帯)

さらに大きな特徴は、河床に従来あった



小さな「湧水孔」は「湧水孔プール」とでも言うべき巨大になり、それがこの区間では4カ所設けられました。

自然河川での「淵」や「静水域」に近い河床形状が出来たのです。

魚たちにとっては期待される場所となります。

(写真: 河床に出来た巨大湧水孔)



さっそくこの「湧水孔」に、コイたちがやって来て遊んでいます。

魚たちは、少なくとも「背びれ」の高さの1.5倍以上の水深がないと、泳ぐことが出来ません。

まして休息場所となるとする、その何倍もの深みが無ければなりません。

まさにこの「湧水孔プール」の深みが出来たからこそ、コイはやって来たのです。

(写真: 湧水孔で泳ぐコイ)



そしてこの湧水孔をよく見ると、ボラと思われる小魚たちがたくさん泳いでいるのが発見できました。

改修前のこの場所には、たくさんのボラがやって来ていましたから、それがどうなるか心配でしたが、やはり巨大な「湧水孔プール」の効果は大きかったのです。

また魚たちはこのプールから出て、さらに上流に向かう姿も確認されています。

(写真:湧水孔を遡上するボラ)



してこの新しい護岸に「カワセミ」がやって来るのも見られました。

魚たちが沢山やって来ているからこそ、ワセミから見て魅力的な場所となったのでしょうか。

この場所は工事前からカワセミが来ていた場所ですから、再び会えたのはうれしい出来事でした。

(写真:八幡橋付近護岸の上のカワセミ)



さらにまた、この区間の「仲之橋」寄りに、段差が設けられ、川幅いっぱいの深みが作られました。

この領域を生きものたちはどう利用するのでしょうか…

生きものたちの状況がキチンと反映されるのには、数年以上の一定の期間が掛かると思います。

楽しみです。

(写真:仲之橋付近の全巾深み)

呑川ごみ拾いウォーキング

(岡 禮子 記)



* 呑川にごみを捨てない
* 呑川に関心を持ってもらう
* 呑川ネットのアピール
等々を目的に”呑川ごみ拾いウォーキング”に取り組みました。
10月2日(土)10時堤方橋・
10時に集合しました。



当日は快晴に恵まれ、区に掲載した参加募集に応募した20代の一般参加者を含めて、呑川の会8名・パルシステム東京南部環境委員会4名・福祉コミュニティ大田2名、この間、呑川ネットへ加入のお誘いをしている“わたみ”社員の2名の参加を合わせて17名でスタートし、川沿いの左右側道を二手に分かれ、炭バサミでごみを集めました。

ゼッケン担当係りの努力で全員が手作りゼッケンをつけ、約1.8Kmの距離を2時間弱の時間で行いました。途中、ごみ集



積場ではないところに、多くのごみが集まっている場所があったり、植栽されている中には、缶・ビン・紙くずが多く、少しでもみえないところに捨てる、という人間の心理が表れていました。

集めたごみの量は、資源ごみ2袋、燃えるごみ4袋、壊れたビニール傘1袋は、蒲田清掃事務所のご協力であやめ橋まで引き取りに来て頂きました。

普段、呑川を散歩している一般参加者の方は、呑川ネットのメンバーからごみ拾いをしながら呑川に多くの生き物がいる話を聞いて”驚きました”と感想が寄せられました。

当日は、呑川ネットをアピールする為に歩いている方に手渡す”チラシ”を作成しましたが、ごみ拾いに集中して一般の方には手渡し出来ませんでした。しかし、ごみ拾いの中で何人かの方から「こくろうさま」と声をかけていただきました。今回のごみ拾いウォークに取り組めた事はいろいろ意見はありましたが、良かったと思います。

善福寺川ウォーキング

(白石 琇朗 記)

～ 最新親水公園見学 ～

* 集合日時：11月6日(土)10時・荻窪駅南口

* 解散：15時・地下鉄丸ノ内線「方南町駅」

* 会費：500円

* 雨天時：午前みの雨・途中からの小雨は歩きます。連絡：白石090-6044 7275

* 散策順路：約7キロ

荻窪駅南口 南口仲通り 桃井二小 忍川橋 神通橋・善福寺川公園(WC)

善福寺川緑地 五日市街道(尾崎橋) 児童交通公園(WC) 成園橋・

善福寺川公園(昼食・WC) 和田堀公園(WC)(大宮八幡宮) 郷土博物館

荒玉水道道路(済美橋) 済美公園(親水公園) 環七治水施設 方南町駅

善福寺川は善福寺池を源として、杉並区を北西から南東に貫くように流れ、中野区の地下鉄丸ノ内線・中野富士見町駅付近で神田川に合流する、全長10.5^{km}の荒川水系の1級河川です。杉並区の中程で大きく蛇行する辺りの川沿いには、都立善福寺川緑地と和田堀公園が全長4.2^{km}に亘り整備されています。武蔵野の面影を残す木立や子供の広場が整備された遊歩道で繋がっていて、春の桜や秋の紅葉も素晴らしく、四季の変化を楽しみながら散策できる公園となっています。

和田堀公園には増水時の調節池が3ヶ所(野球場・壁打ちテニスコート・テニスコート)整備され、集中豪雨による急激な増水に備えています。

荒玉水道道路の済美橋を過ぎた右岸の済美公園に今春整備された、最新の親水公園に立ち寄ります。ここは1189年に頼朝の奥州征伐の時に先陣を務めた畠山重忠が宿陣したと伝えられる地で、都が風致地区の公園としてきましたが、護岸の改修と同時に近隣住民と都の協議を踏まえて最新の親水公園に整備されました。

最後に定塚橋・和田堀橋間に平成19年に完成した洪水対策の施設(環七地下調整池)が左岸にあります。大雨による増水時に、善福寺川の流れを環七通り地下調整池に導いて一時貯留するもので、この調節池は方南橋(神田川)から和田堀橋(善福寺川)を経て新昭栄橋(妙正寺川)まで、内径12.5m・4.5キロの長大なトンネルとして形成されています。環境も良く水の綺麗な流れの川で、かつ災害対策が色々施されている是非とも見ておきたい川の一つです。

今後のスケジュール

11月6日(土) 善福寺川ウォーキング 10時 JR 荻窪駅南口集合 詳細別記のとおり

11月18日(木) 呑川ネットと大田区との意見交換会

10時～12時 会場 区11階第6委員会室

11月27日(土) 呑川ネット定例会 10時～12時 会場 生活センター2階予定

12月11日(土) 呑川の会 定例会 14時予定 会場 蒲田小学校会議室

なお終了後 恒例により忘年会予定

以上